

山ぼうしは「**立志の樹**」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



## 「人間万事塞翁が馬」

校長 及川 敏昭

**3年生**の就職試験が終わりました。結果は県外就職・管内就職についても今年は大変好調で、受験したほとんどの生徒が就職内定通知書を手にする事ができました。生徒達の日頃の努力の成果であると思っております。休み時間になって顔中を喜び一杯にし、ほおを紅潮させて校長室に報告に来る生徒の姿や表情に接するとこちらも嬉しさが胸が一杯になります。

**就職は**人生の大事な転機のひとつであり、学校という港から新たな人生航路への旅立ちでもあります。知識や学力が大きな比重を占める学校生活とは違い、実社会ではもっと総合的そして全人格的なものが威力を發揮するものです。最初の就職先をできるだけ自分一生の仕事と思い、これに一生懸命に打ち込み、そして絶えず努力し研究していこうとする心構えが大切だと思います。アルバイトのような小遣い稼ぎをするような安易な気持ちでは絶対に駄目である。

**また、**残念ながら本人の希望を満たすことができなかった生徒が何人かおります。ど

うして私は失敗したのだろうと不幸に思っているかもしれません。しかし決して落ち込むことはありません。「人間万事塞翁が馬」ということわざのように、人生というのは不思議なことに不幸と幸福が必ず交互にやってくるものです。人間というものは何が不幸になり、いつ幸福がやってくるか分からないということがよくあります。

**従って、**不幸だと思うときはしょげずに胸を張って堂々と生き、幸福と思う時も有頂天にならず、じっくりと自分の務めを果たす心がけが大切だと思います。

**「どこの**学校には入れたか、どこの会社に入れたか」ではなくて、入学した学校で、最初に勤めた会社で、何事も一生懸命に打ち込んでみる、絶えず努力し研究していこうとする心構えを持って欲しいものです。

**失敗**しても悩まないでラッキーと考えること。そして、失敗とは最高のノウハウなのだ、「このようなことをやったらダメになった」ということを身をもって体験したことになると考え、常にプラス思考で普段の生活をしていくことが大切であると思いません。

## 10月行事予定

10月 5日 (水)	県高校総合文化祭開会式
10月 6日 (木)	生徒会役員選挙
10月12日 (水) ~ 14日 (金)	インターンシップ (2年)
10月13日 (木)	薬物乱用防止教室 (1年)
10月19日 (水)	芸術鑑賞
10月20日 (木)	防災避難訓練
10月22日 (土)	県ロボット競技大会 (野田村)
10月29日 (土) ~ 30日 (日)	工業祭 (同名校交流)



# 就職試験始まる！

今年度の求人社数は182社（宮古管内14社、県内20社、県外148社）となっています。昨年度と比較すると宮古管内12社減、県内は6社減となり、県外は5社増となっています。今年の求人は、ひとつの会社からの複数の求人が特徴的で、管内は求人社数こそ減少していますが、求人数に置き換えれば、管内希望者数を上回る状況となっております。

本校3年生の就職希望者は、夏休み返上で入社したい会社を調べたり、履歴書を作成するなど、就職試験へ向けて準備を行ってきました。8月30日から31日の二日間、陸中宮古青年会議所、宮古法人会、宮古商工会議所青年部の皆様にご協力を頂き、模擬面接指導を行いました。生徒たちは、実際の企業経営者の方々の面接指導に、緊張しながらも真剣に取り組んでおり、本番に向けて自分の仕上がりを確認する良い機会となりました。



模擬面接指導の様子

9月16日から全国一斉に就職試験が始まり、その結果が続々と届いています。9月28日現在の本校の内定率は86.4%となり、良いお知らせを多数頂いております。100%を達成した昨年の就職状況と同様に、進路実現全員達成へ向けて好調な滑り出しとなり、今後の状況が楽しみです

## 野球部新チーム始動

～県大会出場と健闘

9月2日より行われた秋季野球大会。3年生の引退後、新しいチームで迎える初めての公式戦である。宮古野球部は沿岸地区予選を敗者復活戦を破竹の4連勝で突破し、見事同大会においては2年ぶりの県大会出場を決めた。県大会では、残念ながら苦杯を飲まされることとなったが、新チームとしてはこれからが期待される好スタートである。

沿岸地区予選はレギュラー2名を欠く苦しい戦いで、ロングリリーフをした右上手投げの本格派エースの

沿岸地区予選 第三代表決定戦（宮古市営球場）

大槌	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
宮古工	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1x	3

久保田（M2・津軽石中）の105球の力投、打線は南館（M2・河南中）、佐藤（I2・豊間根中）が2安打を放つなど健闘したが釜石南高に5-6と惜敗した。そして戦力を立て直して臨んだのが敗者復活戦だった。一回戦は岩泉高戦だったが、今度は先発の久保田による4安打完封の力投が光り、6-0と完勝。勢いに乗る宮工は、

続く釜石工戦でも相手打線を4安打に抑えるとともに、打線でも豊間根（M2・豊間根中）が4安打を放つなど好調、5-3で勝利。続いては練習試合で苦手としていた宮古高との対戦だったが、古館（F2・河南中）が4安打、新キャプテンの川口（F2・西中）、佐々木良太（F2・一中）、久保田が2安打など打線が爆発し9-2でコールド勝ちを決めた。そして県大会出場をかけて沿岸地区で強豪打線を誇る大槌高戦。ここまで連投の久保田に代わり右下手投げの佐々木忠幸（F2・河南中）の先発で臨んだ。佐々木は思い切りのいい投球で大槌打線をかわし、8回裏からは久保田がつなぎ、息の詰まる投手戦となった。延長10回裏の豊間根の一打がサヨナラのランナー熊谷（I1・西中）を還し3-2で県大会出場を決めた。新キャプテンとしてチームを引っ張った川口、連投をものともせず投げぬいた久保田、公式戦初登板となる高校で投手に転向した佐々木忠幸をはじめとして、4回戦を勝ち抜いたチームは大きく成長し実力をつけた。

県大会 第一回戦（金ヶ崎・森山球場）

宮古工	0	0	1	1	0	0	0	0	2
盛岡三	0	0	0	0	6	1	0	2x	9

9月17日に迎えた県大会一回戦は、盛岡三高。序盤2点のリードをしたものの、中盤に守備に乱れが出るなど大量6失点を許した。久保田-佐々木忠幸-豊間根の3投手は力投したものの、足を絡ませてくる三高の野球に対し宮工打線は3安打と不調で2-9とコールド負け。しかし、実力的には県でも十分劣らない力があるとの手ごたえをチームはつかんだ。甲子園を目指す新チームの戦いはこれからである。